

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会
社の全国各支店で行っております。

・住所変更等のお届出について
お取引口座のある証券会社あてにお願いいたします。

・未受領の配当金支払請求について
当社の株主名簿管理人であります三井住友信託銀行
株式会社あてにお願いいたします。

HOME PAGE

当社ホームページで最新情報を提供

イー・ギャランティのホームページでは、会社概要、
事業案内、採用情報に加え、充実したIR情報を掲載
しております。

<http://www.eguarantee.co.jp/>

eGuarantee

イー・ギャランティ株式会社



証券コード：8771

IR通信

2011/4/1 ▶ 2012/3/31



Innovation in Finance

eGuarantee

GUARANTEE

おかげさまで、 東京証券取引所市場第二部に 上場いたしました。

イー・ギャランティ株式会社は2000年9月の創業以来、「クレジットリスクのマーケットメーカー」として独自のビジネスモデルを構築、2007年3月にジャスダックに上場いたしました。

当社はこのたび2011年12月16日に東京証券取引所市場第二部へ上場、新たな成長ステージに踏み出しました。

クレジットリスク市場の裾野拡大に向け、常に新たな施策や取り組みに注力した結果、創業以来11期連続で増収増益を達成いたしました。今後もスピードと安定感を両立させた事業展開により、成長を続けてまいります。



10周年記念での全社員集合写真
(2010年9月)

2000年

9月 東京都港区において、伊藤忠商事株式会社の子会社として、主に電子商取引における決済サービスにおいてファクタリング会社が保有する金融債権の保証を目的として設立



東証上場セレモニー
(2011年12月)



東京本社を恵比寿ガーデン
プレイスタワーに移転

2006年 5月

2007年

3月 ジャスダック証券取引所に株式を上場
5月 九州支店を開設
12月 名古屋支店を開設

2005年

4月 大阪支店を開設

2001年

11月 通常取引分野における企業間取引に伴う売上債権を包括的に保証する「包括保証サービス」を企業向けに提供開始

2012年

1月 フランス系大手信用保険グループの事業を買収
3月 電子債権に関する合併会社をNECキャピタルソリューション株式会社との間で設立を合意、4月設立

2011年

12月 東京証券取引所市場第二部に上場

2009年

9月 企業の資金繰りニーズに応える手形買取サービスの取り扱いを開始
11月 新たにファンドを組成(クレジット・インベストメント1号匿名組合)

2008年

8月 企業の信用リスクに投資するファンドを初めて組成(クレジット・クリエーション1号匿名組合)



Top Interview 【トップインタビュー】



ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社はさまざまな事業活動をする上で課題となるクレジットリスクのコントロールをリスク受託という形でお引受けし、さらに引受けたリスクを多様な主体に流動化することで企業活動をサポートし、活力ある社会成長に貢献したいと考えております。

2007年のジャスダック上場以来、クレジットリスク受託事業という事業分野を金融カテゴリーの一つとしてより多くの方にご認識頂けるよう、少しでもお客様のご要望に近づくサービスを創り、

市場の裾野を一層拡大していきたいという思いで事業に取り組んでまいりました。

お陰様で昨年12月には東京証券取引所市場第二部に上場することができました。クレジットリスク市場の裾野は広く、スピード感をもって更なる事業拡大に努めるべく、役職員一同、引き続き事業に邁進してまいりたいと存じます。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2012年6月

イー・ギャランティ株式会社
代表取締役社長 江 藤 公 則

Q:2011年度の成果について教えてください。

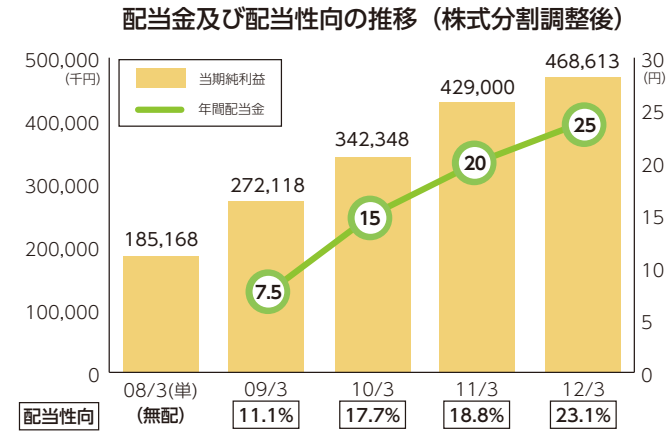
A: 先行きの不透明感が残る中、政策効果による倒産件数の抑制が続く1年となりました。

「優良なリスクポートフォリオを維持しつつ、リスク分類に応じた価格設定と商品投入で新規契約を拡大する」基本方針を着実に実行いたしました。

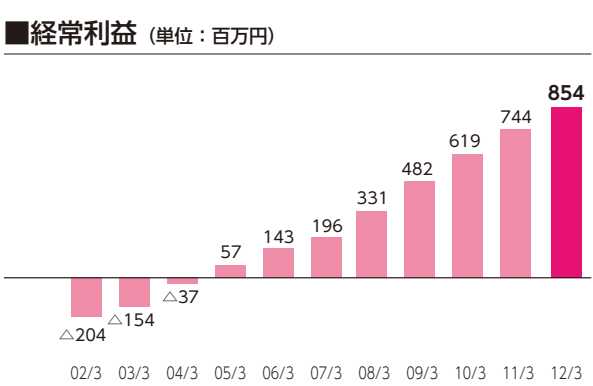
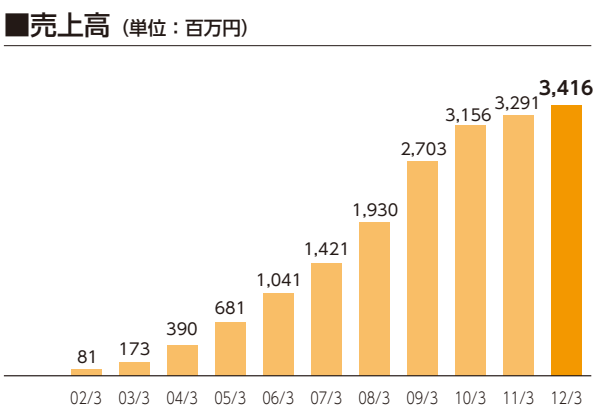
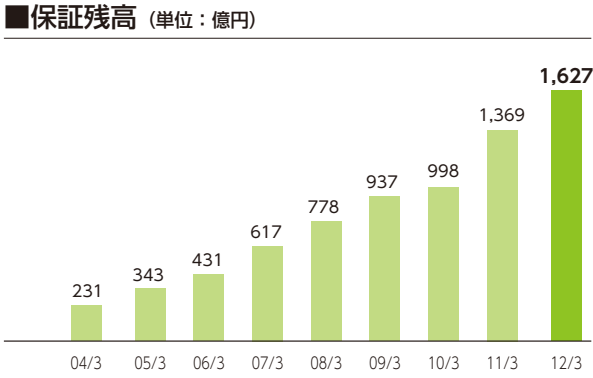
低リスクゾーンを中心に低料率で積極的にリスクを引き受け、大企業が保有する低リスクの受託が大幅に拡大しました。この結果、保証残高は前期末比258億円増加し、1,600億円を突破いたしました。

当連結会計年度における業績は、売上高3,416,327千円（前期比3.8%増加）、営業利益842,960千円（同15.1%増加）、経常利益854,408千円（同14.8%増加）、当期純利益468,613千円（同9.2%増加）となり、11期連続で増収増益を達成しました。

期末配当につきましては、保証事業に相応した財務基盤の充実と共に、企業業績に応じた株主還元を前提に、将来の事業展開に備えた内部留保の確保も勘案し、1株当たり25円とさせて頂きました。



11年連続増収増益を達成



Q:2012年度の事業展開についてお聞かせください。

A: 中小企業金融円滑化法期限切れによる倒産件数の反転・増加が近いと見込んでいます。倒産が増加すると保証料率は上昇しますので、保証残高が多いほど、保証料の増収額も大きくなります。

これを踏まえ、前期同様に低リスクゾーンでのリスク受託を進め、顧客基盤の拡大を図ることを基本方針といたします。

具体的には、『低コスト』・『高額カバー』の引受けを推進し、大企業を中心とした顧客層の取り込みを図ります。

今期の取り組みとして下記の3つに注力します。

① リスク引受力の拡大

現在低リスクゾーンの引受けに注力しておりますが、これに加え、ハイリスクゾーンの引受余力を拡大します。

② 金融機関との連携による保証関連サービス拡大

倒産増加局面では企業の資金繰りニーズも増加するため、手形買取サービスなど資金化商品の販売を提携金融機関と連携して拡大します。

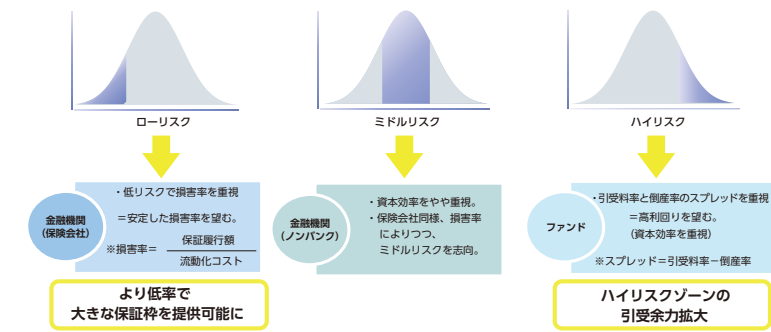
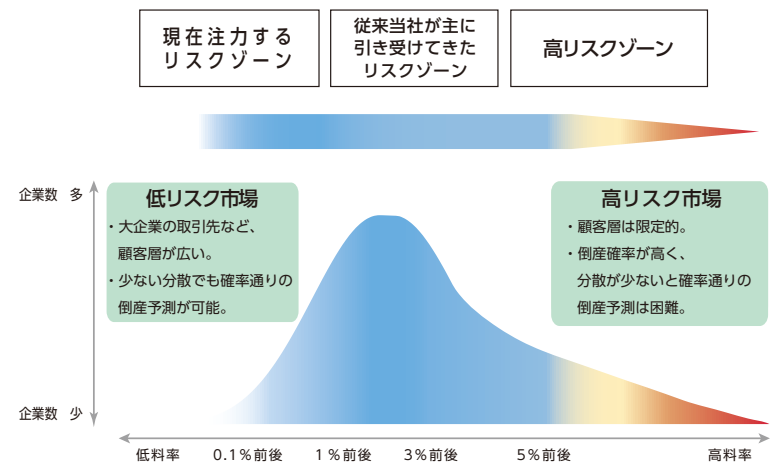
また、でんさいネットのスタートを踏まえ、電子記録債権の買取・保証業務にも取り組みます。

③ 海外向け輸出債権保証受託の基盤整備

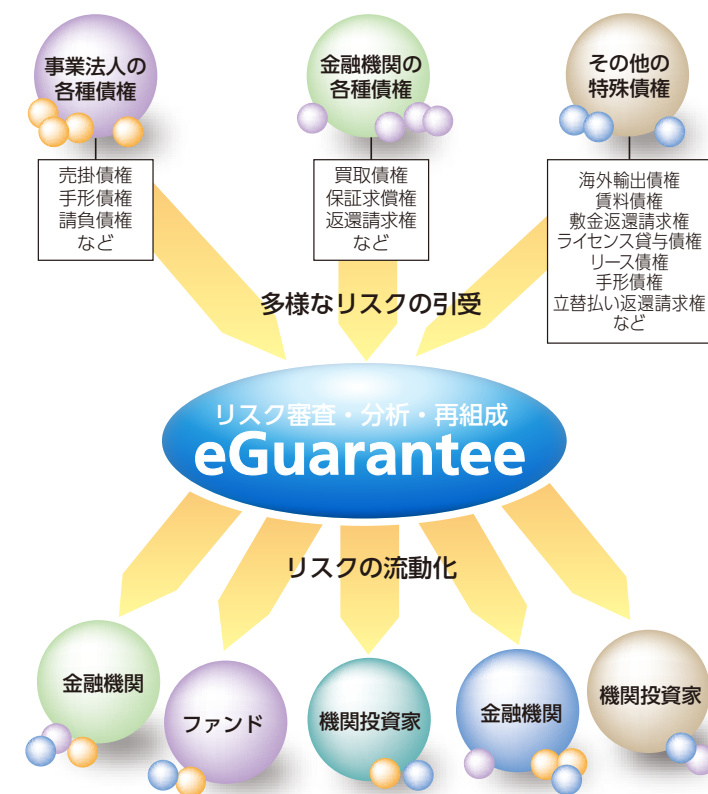
ニーズの高い海外向け輸出債権保証の基盤整備を進めます。

以上の取り組みにより、連結経常利益は初の10億円を目指しています。

リスク引受力の拡大



クレジットリスクのマーケットメーカーとして、企業間信用のみならず幅広いリスクの受託を進め、市場の裾野拡大に取り組みます。



イー・ギャランティは取引先の信用リスクをヘッジしたい企業の信用リスクを受託し、信用リスクの引受けにより収益を得たい金融機関やファンドなどのニーズに合致した魅力あるリスク商品の引受け機会を提供しております。多数の売り手と買い手を集め、リパッケージし、価格付けをする市場の機能を持つイー・ギャランティは、「クレジットリスクのマーケットメーカー」として国内に新たな信用リスク市場を構築しております。

高度な審査力に基づく適正な価格設定

当社は、財務諸表によらない定性的な情報に基づき審査を行っており、既にご契約頂いている全国各地のお客様や新たな契約先、あるいはリスク移転先である金融機関等からの情報を審査情報として活用し、これらをデータベース化することにより、審査体制を構築しております。信用リスクの価格設定は、こうした審査力をもとにリスクをきめ細かくセグメント化することで、お客様にご納得頂ける価格にてリスクの引受けを行っております。

有力企業とのパートナーシップ

全国各地で強固な地盤を持つ地方銀行、大手都市銀行及びその保険代理店、証券会社、リース会社及び商社を始めとする一般企業等との提携により、自社の経営資源だけに依存しない販売網を構築しております。これらの販売チャネルを活用することで、当社自身の信用度を高めるとともに、効率的な顧客獲得及び信用リスクに対する多くの企業ニーズを集めることが可能となります。

リスクを金融機関やファンドに移転

引受けた信用リスクを複数の金融機関等にリスク移転することにより、リスクを小さく切り分けるリスク分散機能が働き、自社の規模に捉われない多くのリスク受託が可能となります。また、多くのリスクを集めることで、予想した倒産確率通りに実際の倒産が起こりやすくなる一方、多くの審査情報の入手と審査にかかるコストの圧縮が可能となります。当社は、信用リスク受託事業の規模の利益を享受しつつ、複数の金融機関等へリスク移転することで高額のリスクを低コストでお引受けしております。

拡大を続ける販売網

提携先地銀・・・計 42 行

- 青森銀行
- 伊予銀行
- 大垣共立銀行
- 群馬銀行
- 滋賀銀行
- 十八銀行
- 仙台銀行
- 東京都民銀行
- トマト銀行
- 西日本シティ銀行
- 百五銀行
- 福井銀行
- 宮崎銀行
- 山口銀行
- 足利銀行
- 岩手銀行
- 京都銀行
- 佐賀銀行
- 四国銀行
- 荘内銀行
- 第四銀行
- 東邦銀行
- 名古屋銀行
- 八十二銀行
- 百十四銀行
- 北都銀行
- 武蔵野銀行
- 山梨中央銀行
- 阿波銀行
- 大分銀行
- 近畿大阪銀行
- 山陰合同銀行
- 静岡銀行
- 常陽銀行
- 千葉銀行
- 鳥取銀行
- 南都銀行
- 肥後銀行
- 広島銀行
- 北海道銀行
- 山形銀行

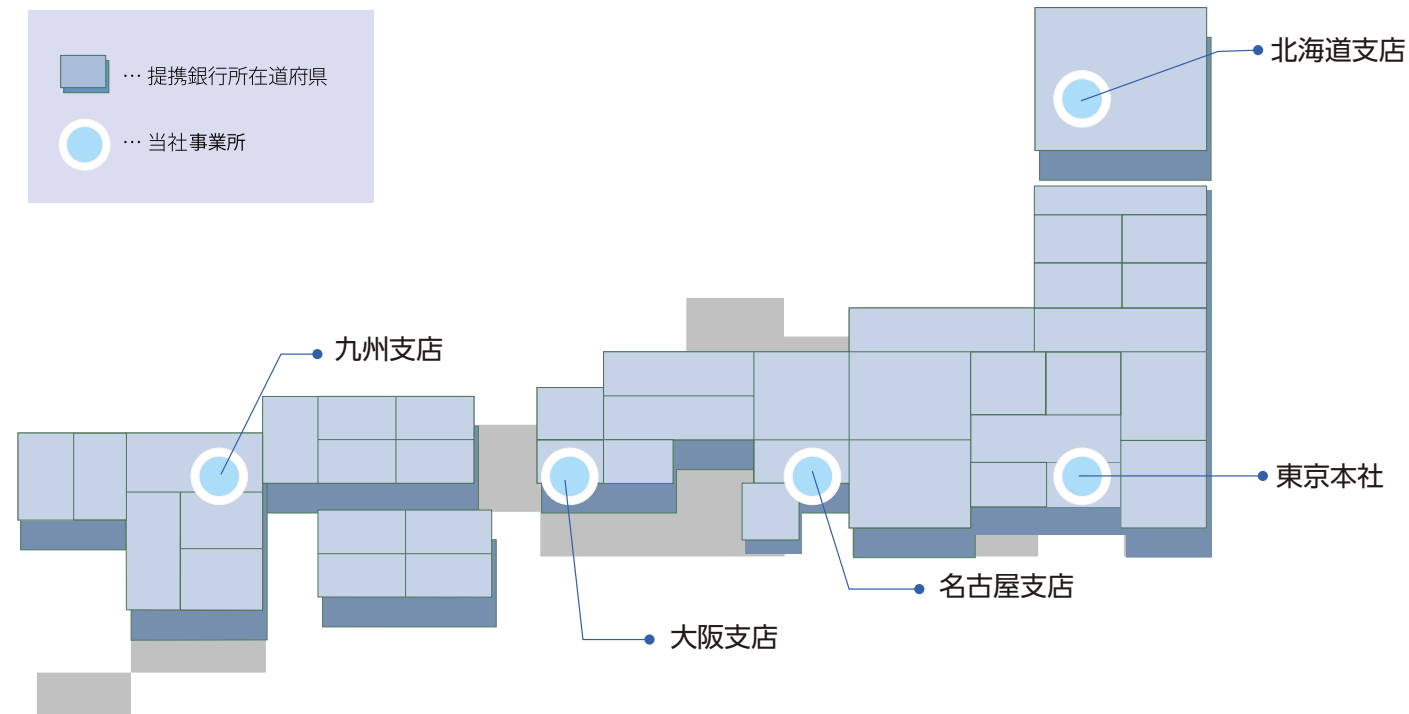
地方銀行以外の提携先金融機関

- 新生銀行
- りそな銀行
- 西武信用金庫
- いちよし証券
- SBI証券
- 岡三証券

金融機関以外の主要な提携先

- エムジーリース
- クボタ総合保険サービス
- 昭光通商保険サービス
- 双日インシュアランス
- 日立保険サービス
- オリックス
- J A三井リース
- 昭和リース
- 東京センチュリーリース
- 三井物産インシュアランス

※青字は昨年4月以降の新たな提携先
(12年5月17日現在)



連結損益計算書

単位＝百万円　比率＝％

	11/3月期	構成比	12/3月期	構成比	増減	増減比
売上高	3,291	100.0	3,416	100.0	125	103.8
売上総利益	1,842	56.0	2,094	61.3	252	113.7
営業利益	732	22.2	842	24.7	110	115.1
経常利益	744	22.6	854	25.0	110	114.8
当期純利益	429	13.0	468	13.7	39	109.2

金融円滑化法延長による倒産件数の抑制が続く中、売上高は前年同期比約４％増加。

リスクポートフォリオの改善により、利益率が更に向上。

(対期初予想比)

単位＝百万円　比率＝％

	期初予想	構成比	12/3月期	構成比	増減	増減比
売上高	3,560	100.0	3,416	100.0	△143	96.0
営業利益	830	23.3	842	24.7	12	101.6
経常利益	840	23.6	854	25.0	14	101.7
当期純利益	450	12.6	468	13.7	18	104.1

売上高は低リスクの案件引受に注力し、想定より保証料率が低下したため、期初予想を下回る。

リスクポートフォリオの改善効果に加え、リスク移転手法の多様化により利益率が向上、営業利益・経常利益・当期純利益は期初予想を上回る。

連結貸借対照表

単位＝百万円　比率＝％

資産の部				
	11/3期末	構成比	12/3期末	構成比
流動資産	4,778	85.9	5,874	88.6
現預金	4,293	77.2	4,617	69.6
前払費用	352	6.3	620	9.4
未収入金	4	0.1	11	0.2
その他	128	2.3	624	9.4
固定資産	782	14.1	757	11.4
資産合計	5,561	100.0	6,631	100.0

一部リスク移転先との契約更新により前払費用が268百万円増加。

増資により資本金・資本剰余金が各々370百万円増加。

利益剰余金が388百万円増加。

負債の部				
	11/3期末	構成比	12/3期末	構成比
流動負債	2,385	42.9	2,282	34.4
保証履行引当金	176	3.2	85	1.3
前受金	1,795	32.3	1,833	27.6
その他	413	7.4	364	5.5
固定負債	63	1.1	65	1.0
負債合計	2,449	44.0	2,348	35.4
純資産の部				
株主資本	2,540	45.7	3,667	55.3
資本金	1,048	18.9	1,418	21.4
資本剰余金	458	8.2	828	12.5
利益剰余金	1,033	18.6	1,421	21.4
自己株式	－	－	△0	△0.0
新株予約権	51	0.9	42	0.6
少数株主持分	519	9.3	572	8.6
純資産合計	3,112	56.0	4,283	64.6
負債・純資産合計	5,561	100.0	6,631	100.0

連結キャッシュ・フロー計算書

単位＝百万円

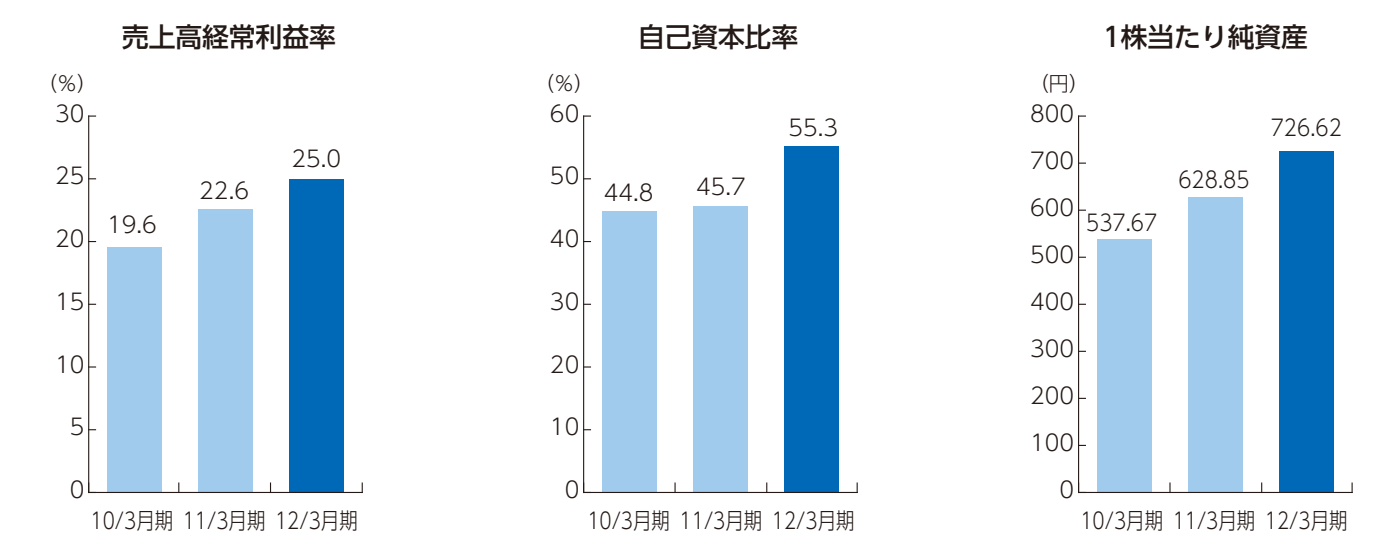
	11/3月期	12/3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	694	214	△480
投資活動によるキャッシュ・フロー	△280	△391	△110
財務活動によるキャッシュ・フロー	△61	650	712
現金等の増減額	352	474	121
現金等の期末残高	2,193	2,667	474

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益885百万円等により214百万円増加。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券取得518百万円等により△391百万円。

財務活動によるキャッシュ・フローは、増資で734百万円調達等により、650百万円増加。

主要な経営指標



来期の連結業績見通し

単位＝百万円 比率＝％

	12/3 月期	13/3月期	増減	増減比
売上高	3,416	3,640	223	106.5
営業利益	842	980	137	116.3
経常利益	854	1,000	145	117.0
当期純利益	468	530	61	113.1
1株当たり当期純利益 (円)	108.23	104.99	△3.24	97.0

中小企業金融円滑化法の期限13年3月が迫る年度後半以降の倒産増加を警戒、引き続き低リスク中心の受託を進め、優良なリスクポートフォリオを拡大。

リスク移転の高度化を継続して収益性を維持、経常利益は10億円を目指す。

会社概要 (2012年3月31日現在)

社名	イー・ギャランティ株式会社 (英文名：eGuarantee,Inc.)
設立	2000年9月8日
資本金	14億1,840万円
従業員	100名
所在地	
＜本社＞	東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー
＜大阪支店＞	大阪府大阪市中央区久太郎町4-1-3 大阪センタービル
＜北海道支店＞	北海道札幌市中央区大通西6-2-6 三井生命大通りビル
＜名古屋支店＞	愛知県名古屋市中区牛島町6-1 名古屋ルーセントタワー
＜九州支店＞	福岡県福岡市博多区博多駅前4-1-1 日本生命博多駅前第2ビル
業務内容	信用リスク受託・流動化事業

役員 (2012年6月26日現在)

代表取締役社長	江 藤 公 則
常 務 取 締 役	加 藤 和 彦
取 締 役	唐 津 秀 夫
取 締 役	永 井 譲 次
取 締 役	永 沢 良 一
取 締 役	山 本 和 洋
常 勤 監 査 役	松 本 清
監 査 役	榎 廣 美
監 査 役	山 岡 信一郎

株式の状況 (2012年3月31日現在)

発行可能株式の総数	7,840,000株
発行済株式の総数	5,047,900株
株主数	2,093名

大株主 (2012年3月31日現在)

株主名	所有株式数 千株	持株比率 %
伊藤忠商事株式会社	1,279.6	25.3
株式会社帝国データバンク	358.8	7.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	316.0	6.3
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	240.0	4.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	181.4	3.6
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	160.0	3.2
株式会社損害保険ジャパン	156.8	3.1
日本興亜損害保険株式会社	100.0	2.0
三井住友海上火災保険株式会社	100.0	2.0
江藤 公則	59.6	1.2

株主別分布状況 (2012年3月31日現在)

